新田　勝見　議員

一問一答方式

その他の質問

- 市民センター管理運営について

地区センター　市の職員は残すべき

市長…新たな取り組み必要

問……今後も地区センターの役割は大きく行政改革が済むまで正職員は残すべきと思う。自治会の在り方や、行政区再編までは時間をかけ住民合意まで進め、行政と地域をつなぐ役目を果たすべき。

答（市長）……住民ニーズも多様化し、従来の取り組みだけでは、十分ではなく、新たな取り組みが必要になってきている。

問……区長ヒアリングの意味はあるのか。方針を無理に進めるための根回しと思うが、区長も住民の声をまとめたものでは無く、時期尚早と思う。

答（市長）……地域リーダーである方々から、個人的な意見であるとの前提ではあったものの、地域課題が整理され、一つの改革案をまとめることが出来た。

問……恵まれた自然や生活環境は、住む人によって育まれる。今後農村部を活かした民泊や、芸能の保存伝承、自然景観を生かした事業など取り組む課題は山積している。

また、地域の活動を担う消防団の組織再編も途中だが、そういった整合性について、自治体の在り方など、協議することはたくさんあり、農村部の政策についてもっと深く考えていく必要があるのでは。

答（市長）……都市と農山村の交流拡大の観光資源と認識している。

消防団の再編については整合性を取りながら検討している。

地域づくりの拠点　地区センター

高齢者運転免許証自主返納者の足の確保は

市長…交通空白地有償運送を促したい

問……最近高齢者による交通事故が多発、大きな社会問題になり、高齢者の運転免許証自主返納が増えている。しかし、その反面、返納した高齢者は、足の確保に大変困っている。

遠野市は、面積も広く、車なしの生活は考えにくい。

市としても他市町村を参考にしながら、返納者の負担にならないような施策が必要と思うが。

答（市長）……路線バス等につながる地域内の交通空白地有償運送（住民による運送）を促していきたい。

瀧本　孝一　議員

（遠野令和会）

一問一答方式

再度、小さな拠点づくりの意義は

市長…安心して暮らせる地域社会が不可欠

問……前回6月議会に引き続き、市民理解が進んでいない「小さな拠点」づくりの意義や必要性を再度尋ねる。

答（市長）……急速な少子高齢化の進展により、地方は特色を活かして自立的で持続的な社会を創生することが早急に求められている。

特に人口減少が急激に進む中山間地域では、商店等生活基盤が存在する基幹集落を中心とした複数の集落による「小さな拠点」（集落生活圏）を形成して、地域で安心して暮らし続けられる仕組みづくりが急がれる。

問……行政依存から自立する地域社会の構築と、指定管理者制度への移行時期などは。

答（市長）……行政サービスも、従来通りの仕組みではこれまで通り維持することが困難となってきており、市民が自主的に行政運営に参画する住民主体の「地域運営」を実現しなければならない。

指定管理者制度への移行は、地域の合意形成や熟度をしっかりと判断しながら、令和2年度以降からの準備を進めている。

定期的に帰省する介護従事者への支援を

市長…ふるさと納税の趣旨活用も視野に

問……市内の実家・高齢者介護施設等へ、首都圏等から定期的に帰省して肉親等の見守り介護をしている、家族・親族等の統計の有無や実態把握をしているか。

答（市長）……本市の65歳以上の高齢者の1人世帯及び2人世帯の数は把握しているが、首都圏等から定期的に帰省して見守り介護をする家族の実態調査の実績や統計等のデータはない。

問……帰省費用等の経済的負担の認識と、ふるさと納税制度を活用した支援策等の考えは。

答（市長）……遠方からの定期的移動費用の経済的負担は、当然大きいと認識している。

直接的な帰省費用等の経済的支援は行っていないが、ふるさと納税制度の趣旨や基本を踏まえ、制度活用に取り組んで行きたい。

定期的に帰省して肉親等を見守り介護する人々へ支援策を